

(様式4)

平成23年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立中里小学校 主任 亀岡 美穂

- 1 派遣期日 平成23年10月20日(木)
2 研修先 会場名 鴻巣市文化センタークレアこうのす 大ホール
所在地 鴻巣市中央29-1
<http://clea-konosu.com/>

3 研修内容

第43回埼玉県学校事務研究大会

「創造しよう！主体的な学校事務を」 ～財務のチカラが教育活動を活性化する～

(1) 行政説明・講話

講師 埼玉県教育局市町村支援部小中学校人事課長 牧 恒男 氏

(2) 研究発表

①「学校経営ビジョンを実現するために事務職員ができること」

～その1 学校財務～

ア学校における財務

イ調査からみた現状と課題

ウ財務の重要性と学校事務職員

○財務が持つ力

- ・学校のために…学校経営ビジョンの実現
- ・児童・生徒のために…学習環境（施設・設備・教材等）の整備
- ・保護者・地域のために…保護者の負担軽減・情報の提供

○学校事務職員だからできること

- ・学校事務職員だからできること
- ・必要なときに必要なものが提供できる
- ・長期計画で取り組むことができる
- ・ネットワークを生かして取り組むことができる

エ学校経営ビジョンの実現に向けて

○学校経営ビジョンの実現に向けた予算制度

- ・総額裁量予算制度
- ・特色枠予算制度
- ・学校提案要求型予算制度

○ライフステージに応じた財務への関わり方

学校事務職員のライフステージに応じた財務への関わり方

資質育成期	(入職～5年次)	財務に関する処理事務
力量向上期	(6～10年次)	財務に関する連絡調整
ミドルリーダー期 A	(11年次～)	財務に関する企画提案
ミドルリーダー期 B	(21年次～)	地域全体への財務への企画提案
地域リーダー期	(26年～)	市町村単位での財務への企画提案

ライフステージに応じた研修が必要

○財務と共同実施

勤務校のみに固執するのではなく、地域や市町村全体での学校力の向上といった広い視野を持つことが必要。「地域事務室」としての共同実施。

②「実践してみたい！会計総括責任者！会計の一元化って？」

～一歩踏み出すヒントが観えてくる～

ア学校事務職員を取り巻く環境の変化

○新学習指導要領の完全実施による取り組み

○総務事務の縮小・新しい役割へ（埼玉県IT化への動き）

○財務事務への転換の必要性

- ・総務事務のシステム化
- ・財務事務による学校課題への取り組み

イ 会計の一元的管理

- 会計を一元的に管理する必要性
 - ・ 学校における会計の現状
 - ・ 現状の会計の課題
- 会計を一元的に管理することによる効果
 - ・ 会計を一元的に管理するための方法（会計総括担当者の役割）
 - ・ 予算の収支状況の把握
 - ・ 予算担当者への支援
- 一元的に管理している会計情報の活用（会計総括責任者の役割）
 - ・ 予算案の作成・提案
 - ・ 保護者や地域の方に対しての会計に関する情報発信
- 職務としての会計総括責任者としての位置づけ（より確かなものへ）

ウ 会計に関する実践例

事例	経験年数 勤務校	経緯	実践
1	5 年 中学校	公費と給食費を 担当	校内の他の会計を知る。
2	15 年 中学校	各担当ごとに会 計を管理	学年会計の情報を集めて公費から支出 できるものを予算化し、請求する。
3	25 年 小学校	市費予算は市費 事務員担当	学校のそれぞれの会計の報告書を校内 で統一。予算の執行計画を作成したい。
4	30 年 中学校	市費予算は教頭 と市費事務が担 当(市の方針) 給食費は P T A の役員が集金 学年費は各担当	給食費と学年費をあわせて総合集金と して、3 年間の予算の計画を立て、毎月 1 万円ずつ集金（中学 3 年生で調整） P T A 役員が集金集計したものを振り 分け入金する。

(3) 研究協議

「学校経営ビジョンを実現するために、財務の視点から学校事務職員にできることは何だろう？」

「会計の一元化の実践・会計総括責任者になるためのヒント」

4 感想

講話は、元埼玉県立伊奈学園中学校（併設型中高一貫校）校長の立場からお話をいただいた。

事務に求める 3 つのお願い、として、①接遇②服装③プレゼン能力の向上が挙げられた。学校は待っている存在から、外へ発信していく存在へと変わっている。地域があって学校があり、学校があって地域がある。一般の方にもわかりやすい情報発信をしてほしい、という言葉があった。

研究発表・研究協議は、2 つの提案発表を元に研究協議を行った。

研究発表 1 は、「学校経営ビジョンの実現ために財務の面から自分でできることを考えよう」ということで、研究協議では、ある学校の実際の学校経営ビジョンを提示され、それを見て「自分だったら何ができるか」と考えて発表する時間があった。今まで、そのようなことを考えたことがなく、同じものを見ても、様々な考えがあり、とても参考になった。

研究発表 2 は、「会計の一元化」ということで「事務総括担当者や責任者になろう」と実践した発表があった。

経験が長くても、市や学校の事情により今まであまり会計に携わっていなかった方が多く、制限された中での工夫は大変だったようだ。課題が多かったが、参考になることも多く、今後の仕事に生かしていきたいと思う。